

# 公共交通オープンデータの整備・流通の促進

Promotion of Open Public Transportation Data in Japan

東京大学 生産技術研究所 大口研究室 (交通制御工学)

<http://www.transport.iis.u-tokyo.ac.jp/>

伊藤 昌毅



<https://www.gtfs.jp>



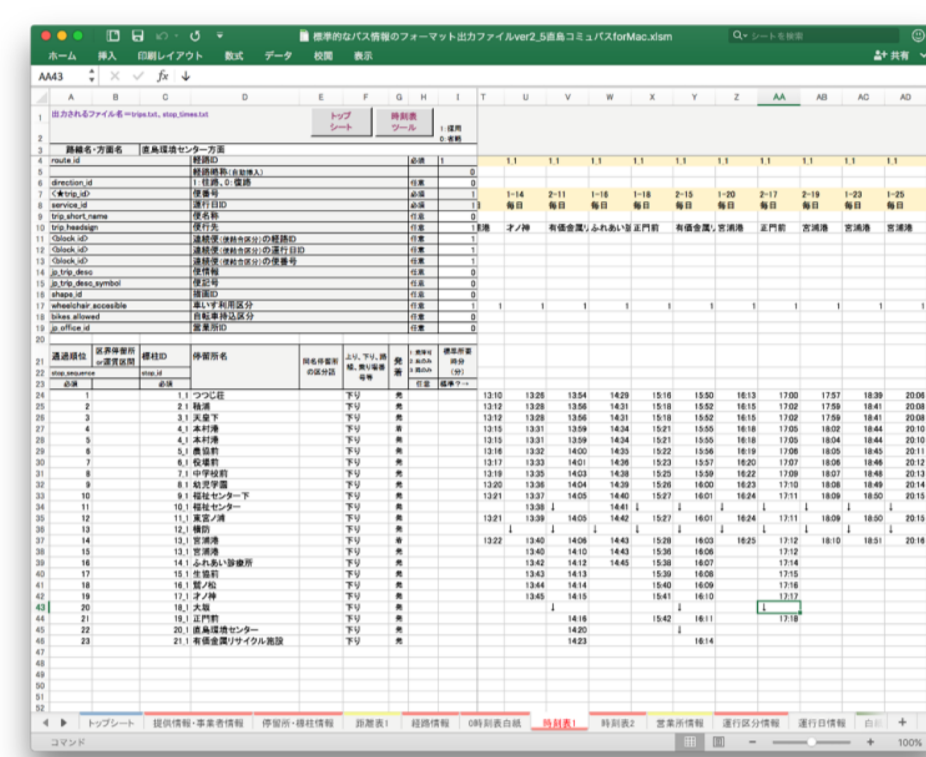
THE UNIVERSITY OF TOKYO  
次世代モビリティ研究センター  
GTFS-JP  
General Transit Feed Specification Japan

## GTFSによる公共交通オープンデータ

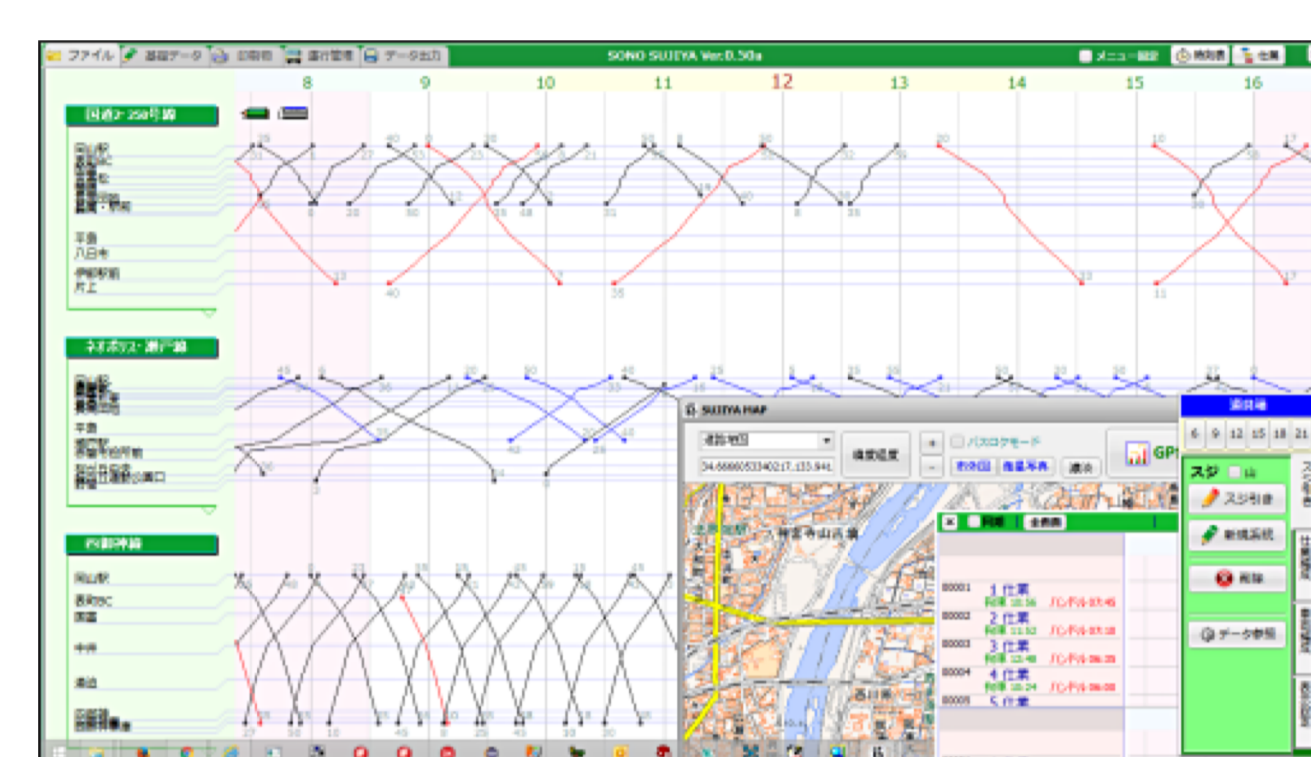
- 目的
  - 地方公共交通の乗換検索への対応と利用促進
  - Mobility as a Service (MaaS)などの新しい技術による公共交通の進化の促進
- 手法
  - データフォーマットとして、国際的なデファクトフォーマットGTFSを国交省で標準化
    - 「標準的なバス情報フォーマット」として2017年に発表
  - データ整備、公開を支援する草の根コミュニティを組織し事業者・行政・乗換案内サービスなどに働きかけ

## オープンデータ整備の促進

- データ作成ソフトの開発・普及



「西沢ツール」



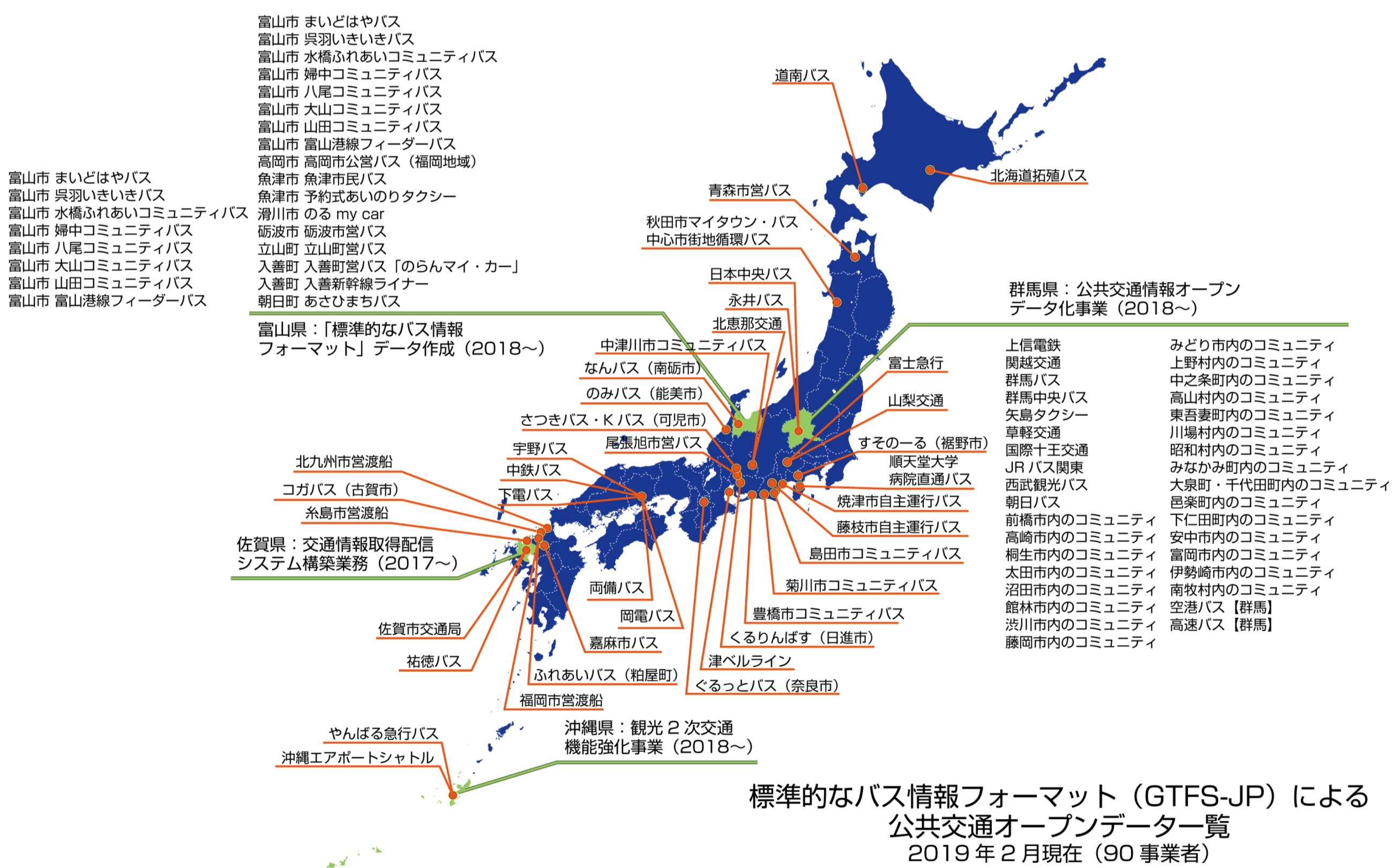
「その筋屋」

- 県、運輸局、草の根コミュニティなどによるデータ整備講習会の実施
  - 例：富山県では県の支援で地域ITコミュニティがバス事業者や自治体対象に講習を行った



## オープンデータ整備状況

- 2019年5月現在117件のデータ整備がすすむ
- 主に地方の路線バス・コミュニティバス
- トップダウンではない、交通事業者や地域行政の主体的な取り組みが活発化
- 群馬、富山、佐賀などでは県庁主導でデータ整備が事業化



## オープンデータ整備の効果

- 国内外経路検索サービスへの採用
  - Google Maps、Yahoo!路線情報など
- Webページやデジタルサイネージなどでの情報提供
- 技術同人誌やアプリコンテストなどの盛り上がり
- 運行データ分析による路線バスサービス改善



倉敷駅前設置されたサイネージの表示例

## 今後の展開

- バスロケーションシステム (リアルタイムの車両位置情報) データ公開・活用の促進
- データを活用した地域公共交通の見える化と改善の実施
- ITエンジニアの交通分野への参入と技術情報発信の促進
- GTFSフォーマットの迅速な更新と国際的な標準化コミュニティとの交流
- バス事業者や地方運輸局などのIT化 (電子申請など) のための技術開発